

平成27年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成28年3月

高知市（高知県）

○計画期間：平成24年12月～平成30年3月（5年4か月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成24年12月以降、認定基本計画に基づき「新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる」、「街なかの回遊性を向上させる」という目標のもとに各事業を実施している。

計画に登載された57事業のうち54事業が予定通り事業着手または完了しており、概ね順調に進捗していると言える。

ハード事業については、主要事業である「新図書館の整備」は平成26年7月に建築主体工事に着手されたものの、免震ゴム問題等により工期延長となり、現時点では平成30年夏の開館を目指している。

「新資料館整備事業」は平成28年3月末に建築主体工事がほぼ完了し、展示ケース整備等の内装施工後、平成29年3月3日の開館予定となっている。

中心市街地に位置する唯一の大学である高知県立大学の永国寺キャンパスについては、平成26年度末に第1期工事が完了し、文化学部が拡充されると共に、高知工科大学の経済・マネジメント学群が設置された。これにより、街なかを多くの学生が回遊する光景が見られるようになった。

また、「帯屋町二丁目地区優良建築物等整備事業」は平成27年8月に完了、賃貸マンションと商業施設を併設した「帯屋町チェントロ」がオープンし、平成17年のダイエー撤退後10年近く活用のなかったこの地に新たな商業施設が生まれたことで、多くの来街者が訪れ、帯屋町二丁目地区については、ダイエー撤退前の水準まで歩行者通行量が回復している。

ソフト事業については、従来から「よさこい祭り」や「土曜夜市」などの商店街全体のイベントが行われていたが、平成25年及び26年の「地域商店街活性化事業」の活用をきっかけとして、「壺番街劇場」、「おまちの笑店街」、「おまちで結婚式」等、各商店街の特色を生かした新たなイベントも生まれた。

そのほか、岸壁整備により外国客船の入港が増加し、本市を訪れる外国人観光客が毎年増加してきている。平成28年3月には免税一括カウンターの整備や、多言語のマップ及びガイドブックが発行され、外国人観光客の受入体制も進んできているところである。

2. 平成27年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

ハード事業では、基本計画に位置づけられた主要事業である「新図書館の整備」は、平成26年8月に建築工事が着手されたものの、その後免震ゴム問題等により工期延長となり、現在は平成30年の開館を目指して進捗している。「新資料館整備事業」は、平成27年度末に建築工事がほぼ完了し、平成29年に開館予定となっている。

ソフト事業では、中央公園や商店街アーケード内でイベントが頻繁に開催されており、中心市街地の賑わいの創出につながっていると言える。計画に登載されている全57事業のうち54事業がこれまでに事業完了または着手済みとなっており、計画の進捗については概ね順調であると評

価できる。

目標指標のうち「中心市街地の居住人口」の推移については、主要事業の完了により居住人口がやや増加傾向にある。一方、「歩行者通行量」の推移は想定をやや下回っている状況にある。

指標の根拠となる主要事業が完了する平成 29 年度以降には、歩行者通行量も上昇に向かうと見込まれるが、計画期間も残り 2 年となっていることから、目標が達成できるよう、各事業の着実な進捗を図っていくことを期待する。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる	中心市街地の居住人口 (評価指標)	5,017 人 (H22)	5,145 人 (H29)	4,996 人 (H27)	③	③
街なかの回遊性を向上させる	歩行者通行量 (平日・休日合計) (評価指標)	103,249 人 (H23)	105,916 人 (H29)	95,403 人 (H27)	③	③

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 「中心市街地の居住人口」について

評価指標の根拠となる主要事業は①「帯屋町二丁目地区優良建築物等整備事業」、②「セントラルレジデンス高知中央公園」整備事業の二つであり、①は平成 27 年 8 月に完成、入居開始となり、②は平成 25 年 9 月から分譲開始され、平成 27 年度に完売した。当初の見込みでは①及び②の事業完了により目標達成となる予定であったが、現時点では達成されていない状況である。しかしながら、中心市街地内に他のマンション建設も進んでおり、最終的には目標達成されると思われる。

(2) 「歩行者通行量」について

歩行者通行量は平成 23 年度の基準値 103,249 人と比較して 7,846 人減少の 95,403 人となったが、帯屋町チェントロの完成等により回復傾向にあり、前年と比較して 342 人増加となった。評価指標の根拠となる主要事業が完了していないため、平成 29 年に開館を迎える「高知城歴史博物館」及び平成 30 年開館予定の新図書館の効果により、来街者の増加が期待できる。

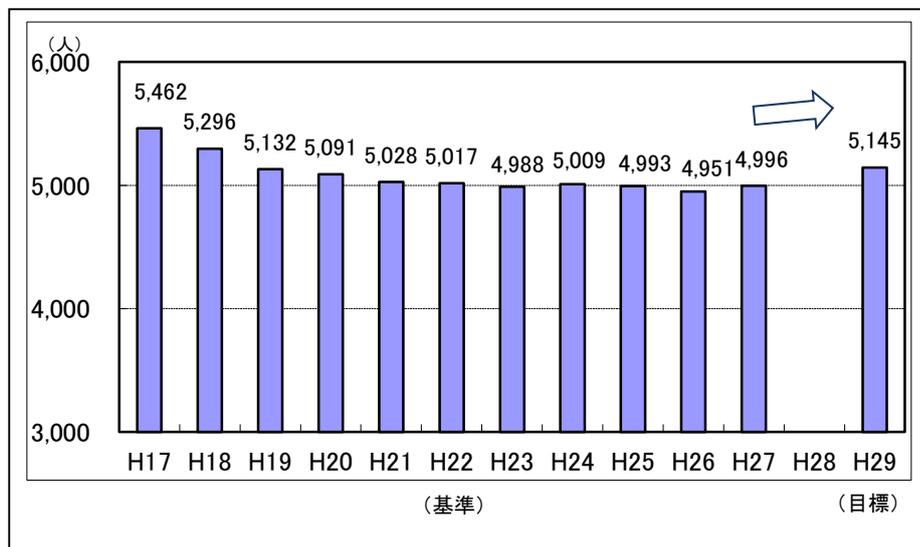
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「 中心市街地の居住人口 」 ※目標設定の考え方基本計画 P45～P46 参照

●調査結果の推移



年	人
H22	5,017 (基準年値)
H23	4,988
H24	5,009
H25	4,993
H26	4,951
H27	4,996
H28	
H29	5,145 (目標値)

※調査方法：計画区域内の町丁別住民基本台帳人口

※調査月：毎年4月1日

※調査主体：高知市

※調査対象：計画区域内の居住者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 「セントラルレジデンス高知中央公園」整備事業（住友不動産株式会社）

事業完了時期	平成 25 年度【済】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地において新しい街なかの暮らしを支える，民間分譲マンションの建設 ・ 地下 1 階～地上 17 階（108 戸）
事業効果及び進捗状況	「セントラルレジデンス高知中央公園」整備事業が完了し，平成 25 年度から順次入居開始され，平成 27 年 10 月に全室完売となった。これにより，居住人口の増加につながった。

②. 帯屋町二丁目地区優良建築物等整備事業（再開発業者）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物販，オフィス，生活支援サービスと住宅の複合施設を整備することで，中心市街地への来街者を創出，街の賑わいに寄与するとともに，新たな街なかの暮らしを支える。
事業効果及び進捗状況	帯屋町二丁目地区優良建築物等整備事業が完了し，帯屋町チェントロが平成 27 年 8 月にオープンした。賃貸住宅全 91 戸は契約済であり，居住人口の増加につながった。

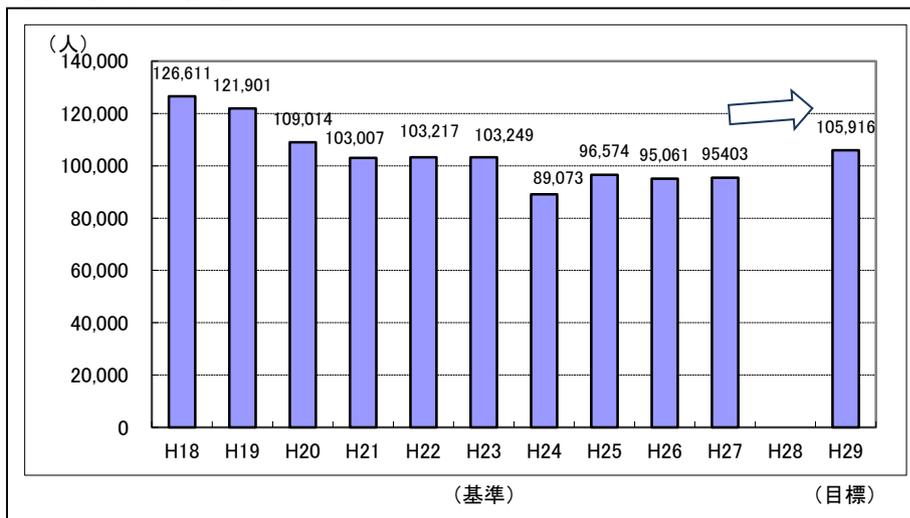
●目標達成の見通し及び今後の対策

目標数値の根拠となる主要事業は、平成 27 年度に完了となった。これにより、基準年である平成 22 年から平成 26 年度までは減少傾向にあった居住人口は、平成 27 年度は増加し、当初推計の減少トレンドを脱したと言える。

主要事業のほかにも中心市街地でマンション建設が行われており、今後も人口増加が見込まれることから、今後も目標達成に向けて着実に進捗を図っていくこととする。

「歩行者通行量（平日・休日合計）」※目標設定の考え方基本計画 P51～P53 参照

●調査結果の推移



年	人
H23	103,249 (基準年値)
H24	89,073
H25	96,574
H26	95,061
H27	95,403
H28	
H29	105,916 (目標値)

※調査方法：「商店街歩行者通行量調査」による

※調査月：毎年 12 月

※調査主体：高知市，高知県商店街振興組合連合会

※調査対象：商店街内の歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新図書館の整備（高知県・高知市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	高知県立図書館と高知市立図書館は老朽化，狭隘化が進んでおり，『知の樹』の展開を図る県市合築の新図書館を整備するもの
事業効果及び進捗状況	「新図書館の整備」は平成 26 年 7 月に建築主体工事に着手されたものの，免震ゴム問題等により工期が約 1 年 4 か月延長となり，現在は平成 30 年夏の開館を目指している。

②. 新資料館整備事業（高知県）

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	戦国時代から近代にいたる山内家資料を核とした高知の歴史・文化に関する資料等の保存継承・調査研究及び展示公開をし、生涯学習や学校教育に活用することにより、教育文化の振興に寄与するもの
事業効果及び進捗状況	平成 28 年 3 月末に建築主体工事がほぼ完了し、平成 29 年 3 月の開館まで展示ケース整備等の内装工事施工を予定している。

③. 旧少年補導センター跡地活用事業（民間事業者）

事業完了時期	平成 25～29 年度【実施中】
事業概要	中心市街地の市有地を活用し、新たな商業・サービス・文化等の拠点を整備することにより、来街者の増加、回遊性の向上を促進する。
事業効果及び進捗状況	平成 24 年度に決定していた事業実施者から辞退申し出があったため、平成 27 年度に再度プロポーザルを実施したものの、参加者の応募がなかった。 今後は中心市街地の活性化に資する事業を行う事業者に対し、土地の売却を行っていく。

④. おもてなし拠点の魅力向上事業（高知市）

事業完了時期	平成 25～29 年度【実施中】
事業概要	中心市街地の玄関口である J R 高知駅周辺において、よさこいや郷土芸能の披露などにより、街なかへの回遊誘導と来街者のおもてなし空間としての魅力向上を図る。
事業効果及び進捗状況	J R 高知駅に隣接する旅広場では週末ごとによさこい鳴子踊りが披露されているほか、中心商店街でのイベント開催にあわせて旅広場においてもイベントが実施されるなど、おもてなし拠点として商店街との回遊性の向上に寄与している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

各商店街でのイベント実施により賑わいが創出され、中心市街地の活性化に向けたさまざまな事業が実施された。歩行者通行量は平成 23 年度の基準値 103,249 人と比較して 7,846 人減少の 95,403 人となったが、帯屋町チェントロの完成等により回復傾向にあり、前年と比較して 342 人の増加となった。評価指標の根拠となる主要事業が完了していないため、平成 29 年に開館を迎える高知城歴史博物館及び平成 30 年開館予定の新図書館の効果により、来街者の増加が期待できる。今後も目標達成に向けて着実に事業の進捗を図っていくこととする。